

10 地域との連携

10-1 流域の連携を強化 ～鶴見川流域水マスタープラン～ 策定

流域における水循環の変化は、昭和 30 年代中頃以降の急速な市街化による浸水被害の頻発から顕著になった。これは市民や関連行政機関も認識し、各種の流域対策を掲げる「総合治水対策」の全国に先駆けた導入と、それを四半世紀にわたり強力に推進する枠組みの確立へとつながった。しかし、近年、社会は拡大から成熟へ向かう情勢の変化のなかで、さらなる安全・環境への配慮、高齢化などの諸課題に直面しつつ、自然と共存する持続可能な社会をめざす都市・地域再生の時代を迎えた。新たな枠組みと多様な連携・協働のもと、安全、安心、やすらぎ、うろおいが確保・増進され、自然環境にもやさしく、これらに関連する文化と教育の充実など、活力ある社会を実現していくことが強く求められている。

「鶴見川流域水マスタープラン」は、この様な背景から流域（流域圏）を計画地域と定め、「健全な水循環系」構築の視点から、自然と共存する持続可能な都市・地域再生をめざすもので、流域の諸課題を把握し、総合的にマネジメントするべく策定されたものである。その実現に向けては、流域（流域圏）市民、市民団体、企業、行政の多様な連携・協働によって推進するものである。図 10-1-1 に示すとおり、基本理念と 5 つのマネジメントの視点で、方針・目標を設定し、関係行政機関で組織する「鶴見川流域水協議会」を母体に、市民等の主体的な参加と取り組みを求める「鶴見川流域水懇談会」と、推進にあたっての専門家の助言を求める「鶴見川流域水委員会」の 3 つの組織で推進体制を確立するものである。

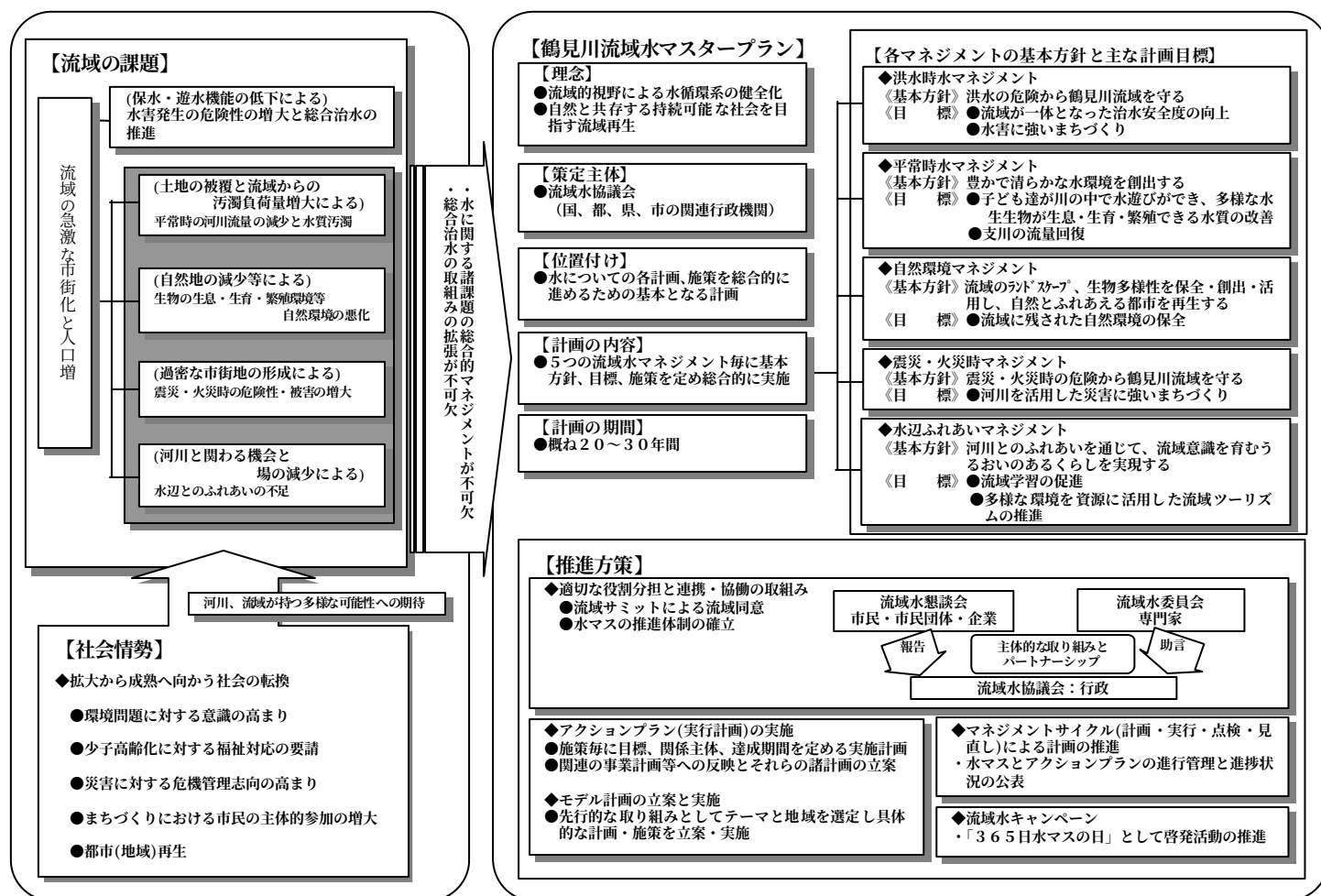


図 10-1-1 鶴見川流域水マスタープランの概要 出典：京浜河川事務所

【策定の経緯】

「鶴見川流域水マスタープラン」の検討は、図 10-1-2 に示すとおり、平成 11 年度の河川審議会の答申を契機に本格化し、学識経験者をはじめ市民や行政がそれぞれの委員会や懇談会に参加しながら協議を進め、平成 16 年 8 月 2 日の鶴見川流域水協議会にて策定された。さらに、同年 8 月 28 日には関連行政の首長による推進宣言により、強力に推進することが合意された。

平成11年 河川審議会総合政策委員会 新たな水循環・国土管理に向けた総合行政のあり方について(答申)

鶴見川流域水委員会準備会(学識経験者など)「鶴見川流域水マスタープラン策定に向けた提言書」の作成

第1回準備会:平成11年10月1日 第3回準備会:平成12年3月30日 第5回準備会:平成12年11月29日 第7回準備会:平成13年5月22日
第2回準備会:平成11年10月21日 第4回準備会:平成12年6月15日 第6回準備会:平成13年2月1日

鶴見川流域水委員会 (学識経験者、市民、行政)

「鶴見川流域水マスタープラン」の立案に対する助言

第1回流域水委員会:平成14年2月18日

- 鶴見川流域水マスタープランの推進・組織構成・工程
- 河川及び流域の概要 ●基本理念(案)

第2回流域水委員会:平成14年5月28日

第3回流域水委員会:平成14年9月3日

第4回流域水委員会:平成14年12月25日

第5回流域水委員会:平成15年2月26日

- 各マネジメント(素案)
- 調整池の扱い、緑地保全などの重点課題の検討

第6回流域水委員会:平成15年9月16日

第7回流域水委員会:平成15年12月16日

調整会議 H16.2.11

第8回流域水委員会:平成16年2月23日

調整会議 H16.3.6

第9回流域水委員会:平成16年3月30日

- 市民意見聴取(鶴見川流域懇談会の設立)
- 横浜市5区からの提案
- 鶴見川流域水マスタープラン(素案)提示
- 鶴見川流域水マスタープラン原案

鶴見川流域水マスタープラン 行政会議

「鶴見川流域水マスタープラン」の立案

第1回行政会議:平成13年11月22日

第2回行政会議:平成14年2月14日

第3回行政会議:平成14年8月28日

第4回行政会議:平成14年12月19日

第5回行政会議:平成15年9月11日

第6回行政会議:平成15年12月11日

第7回行政会議:平成16年2月16日

第8回行政会議:平成16年3月22日

第9回行政会議:平成16年7月26日



鶴見川流域水委員会の様子

世界水フォーラム
平成15年3月16～23日
鶴見川流域水マスタープランの概要報告

報告

鶴見川流域懇談会 ・市民部会 ・行政部会

第1回懇談会:平成15年11月24日

第2回懇談会:平成15年12月23日

第3回懇談会:平成16年2月21日



鶴見川流域懇談会の様子

鶴見川流域水協議会の設立(鶴見川総合治水対策協議会から発展的改組):平成16年8月2日

●同協議会にて鶴見川流域水マスタープラン策定

鶴見川流域水マスタープラン推進宣言式典:平成16年8月28日



調印



推進宣言

図 10-1-2 鶴見川流域水マスタープラン策定の経緯

出典:京浜河川事務所

10-2 地域による構想の策定

鶴見川流域における横浜市の沿川5区(鶴見区、港北区、緑区、青葉区、都筑区)では、連携・協働により、流域の現状、各区のマスタープラン、区民からの要望、さらには技術的な面にも配慮した検討を行い、平成15年に鶴見川流域沿川に関する将来像と、流域を一体的に捉えた基本構想を作成した。

策定においては、学習会やワークショップなどによる意見把握、意見交換、アンケート調査を行なうなど、幅広い区民意見の聴取が行なわれた。

そして「鶴見川流域ツーリズム」をコンセプトに、鶴見川流域の水辺や緑地の活用と、それらを結ぶルートの総合的な活用、区民がまちづくりに主体的に参画するしくみ等が示されている。



写真 10-2-1 いきいきセミナー風景
(上:鶴見区、下:都筑区)

出典:京浜河川事務所

コンセプト：鶴見川流域ツーリズムを推進する。

鶴見川流域に暮らす人々が、

流域の多彩な環境・文化拠点を訪ね、体験し、学び、

その恵みを受けるとともに、流域の環境保全や都市再生の活動に参加し、流域でのより充実した暮らしをおくるしくみとして、流域ツーリズムを推進する

6つの戦略テーマ

- ①プロムナードを連続する
- ②多機能拠点、リバースポット(ポケットパーク)、川へのアクセスを整備する
- ③川辺を緑化し、流域の緑地を保全する
- ④河川の自然環境を保全・回復し、流域の自然環境とネットワークする
- ⑤沿川の土地利用を工夫する
- ⑥計画・事業・活動を調整するルールや場をつくる

(イメージ図)

①プロムナードを連続する。



図 10-2-1 沿川自治体による取り組み～成果(一部抜粋)～ 出典:横浜市沿川5区

10-3 活発な市民活動と連携

鶴見川流域は、「バクの流域」として広く市民に親しまれ、その代表として中心的に活動している市民団体「鶴見川流域ネットワーク（TRネット）」（平成3年（1991）にスタート）の存在は大きく、流域の視点で自然や都市を学び直し、バクの形の流域地図を共有しながら流域規模の市民連携を進め、「安全・安らぎ・自然環境・福祉重視の川づくり、まちづくりを通して、自然と共存する持続可能な流域文化の育成」を目標に活動が行われている。

TRネットの活動は、市民団体が主体的に実施する日常的な活動としての「クリーンアップ活動」や持ち場での「環境管理活動」をはじめ、行政と連携した「ふれあって鶴見川」や「いきいきセミナー」等の流域啓発イベント、環境教育、調査活動、実践的な管理活動など多様な分野に広がり、平成15年（2003）3月には、特定非営利活動法人「鶴見川流域ネットワーク（npo TRネット）」が設立され、連携・協働をさらに強化し、進めている。

現在、こうした市民活動と連携して、年間を通してイベントが行われ、企画立案に市民団体が積極的に参加できる場を設定する他、より広範な市民にも様々な取り組みに対する意識啓発をめざした広報活動を進めている。

表 10-3-1 鶴見川流域のイベントカレンダー

	主なイベント（平成 16 年度）	イベントの様子
通年	ふれあって鶴見川・バクの流域水キャンペーン	クリーンアップ  
5月	こども風の祭り、鶴見川源流祭	
6月	わんぱくカヌー探検隊	
7月	いかだで遊ぼう谷本川、サルビア交流・流域キャンプ	
8月	鶴見川いかだフェスティバル、川風フェスタ in 鴨居	
9月	T R ネットの鶴見川流域クリーンアップ作戦	
10月		
11月		
1月	鶴見川新春ウォーク	
2月	鶴見川夢討論会	
3月		

表 10-3-2 ふれあって鶴見川実行委員会メンバー

出典：npo TRネット

	主要メンバー
市 民	npo TRネット（理事、事務局）、鶴見川源流ネットワーク、谷本川流域ネットワーク、鶴見川中流域ネットワーク、恩田川流域ネットワーク、カワウネットワーク、早瀬川流域ネット、矢上川流域ネットワーク、下流ネット・鶴見
民 間	イッツ・コミュニケーションズ株式会社、YOU テレビ株式会社、小田急ケーブルビジョン、株式会社アール・エフ・ラジオ日本、神奈川新聞社、（財）横浜市スポーツ振興事業団、（社）横浜市身体障害者団体連合会
行 政	東京都、神奈川県、横浜市（鶴見区、神奈川区、港北区、緑区、青葉区、都筑区、下水道局、消防署）川崎市（建設局、幸区、中原区、高津区、宮前区、麻生区）、町田市、京浜河川事務所

出典：npo TRネット



出典：
 右から1・2つ目
 npo TR ネット
 右から3つ目
 特定非営利活動法人
 流域自然研究会

写真 10-3-1 意識啓発をめざした広報媒体

10-4 流域の情報発信

平成 15 年 9 月に鶴見川多目的遊水地管理センターの一角に、鶴見川流域の総合的な情報発信拠点として「鶴見川流域センター」が開館し、流域の小中学校の環境学習等に利用されている。

今後も、流域の市民団体、流域自治体との連携・協働を進めながら、河川・流域についての理解の向上と、地域の情報拠点としての役割を果たしていくことが期待されている。



●遊水地管理センターの施設概要

- ・1.2 階 鶴見川流域センター
- ・3.4 階 京浜河川事務所 綱島出張所
遊水地管理設備機器

●利用人数（平成 15 年 9 月 23 日～）

平成 16 年 7 月 3 日時点で 1 万人を突破
（40 人／日に該当）



平成 15 年 9 月 23 日
開設

1 階



ライブラリー
（45 m²）



コミュニティ
ルーム
（104 m²）

2 階

展示室（150 m²）



ワークルーム
（80 m²）



環境に配慮した施設の整備



屋上緑化



透水性や保水性
アスファルト舗装



太陽・風力電池
の活用



図 10-4-1 鶴見川流域センターの概要 出典：京浜河川事務所